



米子市埋蔵文化財センターたより

第3号

2011年12月

はんちくじょう

版築状遺構発見、終末期古墳か！ —南部町^{さかいやいし}境矢石遺跡—

平成22年3月から行ってきました境矢石遺跡の発掘調査は、終盤にさしかかってきました。現在、丘陵の東側と南側の斜面部、谷部（6区）の調査を行っており、丘陵全域に弥生時代後期～古墳時代中期の集落が広がっていることが明らかとなってきました。また、古墳時代終末期の版築状遺構や横穴墓を確認するなど、新しい発見もありました。

版築状遺構 版築状遺構は6区の谷部に位置し、黄色い土と黒い土を交互に版築状に積み上げて構築しています。遺構は、調査区外にも広がっており、全体の規模は不明ですが、北東－南西長15m以上、北西－南東長17m以上、最大深さ2.8mの大規模なものです。

これだけ大量の土をどこから運んできたのでしょうか。丘陵の頂上部には、広い平坦面が存在し、調査の結果、旧地形が削られていることが判明しており、この土を用いてこの版築状遺構を構築したものと考えられます。



版築状遺構の土層断面

版築状に土を積み上げるのは、古代寺院や宮殿の基壇や古墳の墳丘にみられますが、当遺跡では寺院に関わる瓦等の遺物が出土していないため寺院跡ではなさそうです。土層断面で周溝状の溝が認められることから、古墳時代終末期につくられた山寄せの古墳であった可能性があります。遺構に伴う土器などが出土していないため、構築された時期は不明ですが、当遺構の上層から奈良時代の遺物が出土していることから、奈良時代以前のものと考えられます。大規模な版築を構築していること、南西に開く山寄せに位置的していることなどから、地域の有力な首長の古墳であった可能性があります。古墳であったとすると、残念ながら埋葬施設は失われているようです。

また、遺構の上部斜面で横穴墓を1基確認しており、位置的にも近接しているため、版築状遺構との関係も注目されます。

今後、版築状遺構の上部北側を調査することにしており、この遺構の全容や性格が解明出来る資料の発見を期待して調査を進めています。2年近くにわたって行ってきました境矢石遺跡の発掘調査も来年の3月に終了する予定です。（高橋）

発掘調査情報

「北枕では無く、東枕」^{ばくろうづか} - 伯楽塚遺跡の古墳から -

伯楽塚遺跡の調査で6世紀頃の古墳を5基確認しました。遺跡は伯楽塚古墳群と越敷山古墳群の中間地点に位置していますが、鳥取県遺跡地図に古墳は登録されていません。

今回見つかった古墳は、標高90m前後の尾根上に位置しており、全て直径が6mほどの円墳です。墳丘盛土は、奈良時代頃に削られ無くなっていましたが古墳の周囲には石棺4基と土壙墓9基の埋葬施設がありました。大きさから土壙墓は大人の埋葬に、石棺は子供の埋葬に使われたと推測されます。また副葬品



棺底小礫上の須恵器枕

はほとんど見つかりませんでした。平らな石や須恵器を枕として使った事例があり、どの方向に頭を向けて葬ったのかが判明しました。興味深いのは、本遺跡では古墳の周溝底から祭りに使われたと考えられる土器が出土し、全ての古墳で周溝の南東部に置かれていたため、祭りをを行う場所に決まりがあったことを窺わせます。また、枕の位置から死者を埋葬する時には、必ず東部に死者の頭が向くようにして葬られていたことが分かりました。今日では、葬式の際に死者を北枕にしますが、こうした風習が古墳時代にも見られたことは興味深い事例です。なぜ死者の頭が東に向いているのか、という疑問にはまだ明確な答えがありませんが、調査地の東にある大山を意識した風習があったのでしょうか。これから、東枕の謎解きに挑まなければなりません。(佐伯)

整理室たより

埋蔵文化財の資料整理を平成21年度から3年間実施してきました。内容は主に発掘調査スライドと米子関係の報告書のデジタル化、考古学関係図書の保管台帳の作成、寄贈遺物等の整理などです。

現在、デジタル化したスライドは18万カットとなり、遺跡毎にCDに焼付けファイル化してあります。米子市関係の報告書はPDF化してあります。また全国から送付された報告書は1万3千冊、学会誌や単行本などの図書類は1万7千冊が台帳登録されました。今後これら資料の保管管理と活用が課題です。(小原)



スライドのデジタル化作業

遺跡シリーズ 3

池ノ内遺跡 (いけのうちいせき)

池ノ内遺跡は、米子駅の南東1kmの美吉の水田下1mに所在する遺跡で、1933年の新加茂川開削時に目久美遺跡と共に発見されました。1984年に新加茂川拡張に伴う調査によって、弥生時代中期末から古墳時代にかけての水田跡の遺構が検出されました。水田跡は小区画の水田で、洪水を受けるたびに新しい畦を造り直しており、層位の異なる弥生時代の水田跡3面と古墳時代の水田跡1面が確認されています。

また遺跡からは農具や工具、建築部材などの大量の木製品が発見されました。木製品は鍬、鋤、穂積具、えぶり、田下駄、田舟など農耕具が大半ですが、梯子、柱、杭、加工板などの建築部材や斧柄、容器片、網杵、かんざしなど多種多様なものです。

本遺跡は古代の人々が自然災害と戦いながら水田を切り開いてきた様子を物語っています。



(上) 造り直された水田の畦 (下) 田船



コラムー縄文遺跡を掘る ②縄文時代前期 ー陰田第9遺跡ー

米子市陰田町にある低湿地遺跡で、1982年、米子バイパス工事に伴い米子市教育委員会によって調査されました。住居跡などの生活遺構は発見されなかったが、縄文前期初頭（6千年前）と晩期（2千5百年前）土器、石器のほかに動植物遺体が発見され注目されました。遺物は地表下3mの青灰褐色砂質土層から発見された鹿や猪の獣骨と貝殻、ドングリ、クルミなどです。当時この辺りまで中海が入り込んでいたことや、どんな動物や植物を捕獲・採取していたかなどが具体的に解りました。米子の古環境や縄文時代の食生活を知ることが出来る「さきがけ的な調査」となりました。



鹿の肩甲骨出土状況

センター・資料館日誌

- 10月23日 講座「史跡青木遺跡ガイドツアー」を開催した。
- 10月25日 加茂小学校1年生が校外学習で福市遺跡にやってきた。
- 10月29日 「上淀廃寺の謎を究明せよ」シンポジウムが淀江文化センターで開催された。(共催)
- 10月30日 「上淀の秋を楽しむ」現地探訪が開催された。(共催)
- 11月 3日 信金ウオークが福市遺跡を目指して開催された。
- 11月 5日 講座「旧市内の石造物巡り」を開催した。
- 11月 7日 奈良教育大の金原先生が種子サンプル鑑定指導に来訪された。
- 11月13日 考古学講座「奈良時代のよなご」を開催した。
- 11月15日 鳥取市万葉博物館の鎌澤学芸員が資料返却のため来館された。
- 11月17日 広島大学院生が卒論研究で石器調査に来館された。
- 11月22日 夜間に施設の昇降口ガラスが毀損された。
- 11月23日 木器研究会の方々が、木器鑑定と指導のため来館された。
- 12月 8日 埋蔵文化財センターで消防訓練を実施した。
- 12月16日 手塚山大の学生が卒論研究で甗形土器調査に来館された。
- 12月19日 鳥取大学高田先生が県史編纂資料調査で来館された。
- 12月22日 埋文調査室の整理作業員研修会

行事案内

「拓本体験講座」

遺跡から出土した土器や瓦などの文様を拓本で写し採る実技体験講座を行います。

日時 1月15日(日)

午後1時30分～3時30分

場所 米子市埋蔵文化財センター

定員15名、資料代100円

申込 電話・FAXで受付中

0859-26-0455まで

■開館時間

午前9時～午後5時

■休館日

催事開催日を除く毎週土、日曜日、祝日、年末年始

編集後記

2011年も早、師走となりました。今年は東北大震災や台風など自然災害の多い年でした。センターでも台風で校庭南斜面が崩壊するなど被害がありました。

また、今年は暖かい冬の日が続くなど季節が少し変です。今冬も大雪にならないようにと祈るような気持ちです。

来年は災害のない年になりますように願っています。

発行日 平成23年12月22日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp